

今月の PICK UP

『イコ トラベリング 1948-』 角野 栄子／著 KADOKAWA 913.6カ

終戦後まもない東京・小岩。中学生のイコは、英語の授業で習った現在進行形に夢中になります。「今しつつある？ しつつあるのだ!! この言葉って素敵じゃないの! こういう風に生きていけたら……現在進行形で生きていけたら! 心が強いふりができるかもしれない!」

時には落ち込むこともあるけれど、好きなものの方へ、やりたいことの方へ、やっと訪れた自由の時代の中をひたむきに突き進んでいく少女の姿が爽やかです。『魔女の宅急便』や『おばけのアッチ』などでおなじみの、角野栄子さんによる自叙伝的物語。



司書の おすすめ

『じゃんけんできめる』 山添 聖子・山添 葵・山添 聡介／著

小学館 911.1ジ

「学校で習ったもの」であった短歌をなんとなく始めた聖子さんの日常。それを子どもである葵さんと聡介さんがまねをしてできた、短歌を詠む毎日。小学生の姉弟と母の10年分の短歌が紹介されています。

題名にある「じゃんけん」についての姉弟それぞれの短歌には、思わずクスツとなりやさしい気持ちでいっぱいになります。



『アルプスでこぼこ合唱団』 長坂 道子／著 KADOKAWA 914.6ナ

スイス在住20年余りにして、思い切って飛び込んだ団員20人の小さな混声合唱団。決して気さくとは言い難いスイス人の気質に加え、自身のドイツ語コンプレックスも合わさり、話し掛けることすらできませんでした。それでも、週一回の練習を重ね、教会でのコンサートを経験する内に少しずつ団員たちと交流が始まります。そんな矢先、コロナ禍のロックダウン、仲間との別れと、著者にとってつらい出来事が続きますが、仲間と共に再開の日を信じて待つ日々が細やかに綴られています。



『びわ湖一周滋賀してんしゃ旅』 輪の国びわ湖推進協議会／編 八重洲出版 S291.6ワ

びわ湖一周200kmを、自分だけの体験を求めてサイクリングする「ビワイチ」の公式ガイドブックです。地元のサイクリストが走って集めた情報と最適なルートを選んで、詳細走路地図が作られています。地域の旅として、「ほたるの町・守山ぐるり一周」初級コースも紹介されていますよ。

風薫る今、ビワイチにチャレンジしてみませんか。



『施設長たいへんです、すぐ来てください! 認知症「介護現場」の事件簿』

柴谷 匡哉／著 飛鳥新社 369.2ジ

「施設長たいへんです!」と駆け込んできた職員の「たいへん」は様々。「入居者が帰ってこない」「料理が消えた」「大切な物がなくなった」……。社会福祉士、介護福祉士、ケアマネジャーとして25年以上にわたり働いてきた著者の実体験を基に、認知症による「事件簿」を紹介しています。ユーモアを交えて書かれるエピソードに、肩の力を抜いて楽しく読みながら、認知症の症状や適切な接し方を知ることができます。

